

〔目的〕演者らは、これまで、洗剤や洗濯機の変化（大型全自動洗濯機の普及など）による洗濯性能への影響について報告してきた。しかしながら、これらの検討は、モデル実験に基づくもので、実使用場面における洗濯性能との相関性については十分把握するには至っていなかった。そこで、本報では、家庭における洗濯条件及びその時の洗濯性能を調べることによって、洗濯機の変化に伴う洗濯条件、洗濯性能の変化について明らかにし、現在の家庭洗濯をより適切にするための課題について考察した。

〔方法〕一般家庭240世帯でそれぞれ通常の洗濯物と一緒に洗われた試験布（ほつれ率試験布、湿式人工汚染布など）を回収・評価することによって布に加えられた機械力や洗浄性能を測定し、同時に実施した洗濯行動調査（使用洗濯機・洗剤使用量・浴比など）の結果と共に洗濯性能に及ぼす各種要因を解析した。

〔結果〕今回の調査対象者における全自動洗濯機の所有者は55%、そのうち約1/3は洗濯容量が5 Kg以上の大型のもので、現在の実態にほぼ近いものと判断される。実際の使用条件には各家庭ごとにかんがりのバラツキがあり、それに伴い布傷み（ほつれ率）や洗浄性能にも広い分布傾向が認められた。しかしながら、各要因ごとに検討すると①洗濯機種では、新水流型の全自動洗濯機の方が渦巻き水流型の二槽式よりも布傷みが少ない傾向を示すが洗浄性能には影響が小さい。②洗濯条件には、洗濯機の違いによる相違があり、特に、大容量の洗濯機使用者には不適切な使用方法も見受けられることが分かった。これらの結果を踏まえて、今後の家庭洗濯において求められる浴比や洗剤使用量について考察した。